

(基礎資料)

日本手話に特化した翻訳・通訳技術向上支援事業

及び ろう通訳者・フィーダー養成に関する報告

1 はじめに

NPO 法人手話教師センターでは、日本手話に特化した翻訳・通訳技術向上支援事業(日本財団)を 2014 年度よりスタートさせた。これは、ろう者の言語である日本手話で翻訳・通訳できる人を増やすために、聴者を対象にした翻訳・通訳プログラムを充実させるとともに、「ろう通訳」という新しいジャンルの確立をめざしたものである。

日本の手話通訳の資格は、社会福祉法人聴力障害者情報文化センターが実施する厚生労働大臣認定の手話通訳技能検定試験(手話通訳士試験)と社会福祉法人全国手話研修センターが実施する全国手話通訳統一試験の2つがあるが、対象は聴者のみでろう者は対象外となっている。

欧米やアジアの一部では、大学等でろう通訳者の養成が行われ、また、資格試験も実施されている。そして、資格のあるろう通訳者(ろう通訳士、CDI、Certified Deaf Interpreter)が会議通訳(国際会議含む)及びコミュニティ通訳の領域において活躍している。

一方、わが国においては、ろう通訳の資格制度がなく、また、専門的な通訳教育も実施されていない。いわゆる「訓練されてない」ろう通訳者が部分的に存在する。彼らの通訳の不十分さや通訳倫理上の問題を指摘しても、そのほとんどは放置されている状況にある。そうした中、ギャローデット大学大学院で手話通訳学の修士を修了したろう者が2014年11月に帰国することになり、ろう者自身が通訳を行なうための養成プログラムを開始する絶好の機会だと判断した。そして、ろう通訳者養成講座、フィーダー(聴の手話通訳者)養成講座を 2015 年度より開始することになった。

また、このろう通訳者、フィーダー養成と並行して、「ろう通訳者」のもつ役割やその必要性について、広く認知してもらうため、ろう通訳シンポジウム等を行なってきた。

この4年間で養成したろう通訳者、フィーダーについては、下記のとおりである。

2015年度～2018年度(4年間)

ろう通訳者 26名      フィーダー(聴の手話通訳者) 16名

2015年度

ろう通訳者 9名(うち IS コース3名) 1期生

フィーダー 6名 1期生

2016年度

ろう通訳者 7名(うち IS コース1名) 2期生

フィーダー 4名 2期生

2017 年度

ろう通訳者 6 名 3 期生

ファイダー 2 名 3 期生

2018 年度

ろう通訳者 4 名 4 期生

ファイダー 4 名 4 期生

以下は、日本財団助成事業として行なったものをまとめたものである。その中で、ろう通訳者、ファイダーに関するものは下線を入れた。(新規に開始したものについても下線を入れた。)

## 日本手話に特化した翻訳・通訳技術向上支援事業(日本財団)

---

### 初年度(2014 年度)

#### ・翻訳講座(日本語から日本手話への翻訳)

1 講座 5 回(7.5 時間)×2(ろう者対象 1 講座、聴者対象 1 講座)

受講者人数 ろう者 8 名、聴者 8 名

#### ・e-ラーニング翻訳講座(日本手話から日本語への翻訳)

インターネット(メール等)を利用した学習。

翻訳課題(動画)6 本+対面学習会 3 回(6 時間)で 1 セット。 2 セット実施。

受講者 聴者 のべ 16 名

#### ・翻訳・通訳講師養成講座(30 時間)

日本語-日本手話の翻訳・通訳を指導できるろう講師の養成

受講者人数 ろう者 10 名(修了者は 8 名)

#### ・ろう通訳シンポジウム

「ろう通訳」に関する認知度が低いため、「ろう通訳」の重要性を認識してもらうために名古屋(参加者 106 名)、大阪(参加者 65 名)、東京(参加者 95 名)の 3ヶ所で開催。

#### ・公開特別セミナー及び勉強会

ギャロデット大学大学院通訳学部の修士課程を修了し、2014 年 11 月に帰国した川上恵氏を講師に迎え、通訳に関するセミナーと勉強会を実施。セミナーは 40 名、勉強会は 11 名が参加。

---

### 2015 年度

#### ・翻訳講座(日本語から日本手話への翻訳)

1 講座 5 回(7.5 時間)×2

1 講座 2 回(6 時間)×1

受講生人数 聴者 のべ 26 名 \*ろう者対象は実施せず

#### ・e-ラーニング翻訳講座(日本手話から日本語への翻訳)

翻訳課題(添削指導)6本+対面学習会3回(6時間)で1セット。2セット実施。

受講生人数 聴者 のべ15名

- 手話教師を対象にした研修会

「手話教師に求められる翻訳・通訳に関する知識」をテーマに研修。参加者 16名(ろう手話教師)。

- 通訳理論講座(22.5時間)

最新の「通訳理論」を日本手話で学ぶ。

受講生人数 11名(ろう者6名、手話通訳者5名)

- フィーター養成講座(22.5時間)

ろう通訳者へのフィード技術及び通訳論を学ぶ

受講生人数 6名(手話通訳者)

- ろう通訳者養成講座(日本語コース)(30時間)

ろう通訳者として必要な通訳技術と通訳論を学ぶ

受講生人数 6名(ろう者)

- ろう通訳者養成講座(ISコース)(30時間)

IS(国際手話)のろう通訳者として必要な通訳技術と通訳論を学ぶ

受講生人数 3名(ろう者)

- ろう通訳シンポジウム

昨年度に続き、「ろう通訳」に関する認知度を高めるため、愛媛(参加者20名)、鹿児島(参加者108名)、宮城(138名)の3ヶ所で「ろう通訳シンポジウム」を実施。

- 世界手話通訳者会議(WALI)への視察員・ろう通訳チームの派遣

2015年7月20日~25日

トルコ・イスタンブール

視察員4名(ろう者2名、聴者2名)、ろう通訳チーム(メンター1名含む3名で構成)

- 世界手話通訳者会議報告会

ろう通訳に関心のあるろう者及び聴者を対象に実施。参加者 55名。

---

## 2016年度

- 翻訳講座(日本語から日本手話への翻訳)

1講座5回(7.5時間)×3

1講座15回(22.5時間)×2

受講生人数 聴者 のべ46名

- e-ラーニング翻訳講座(日本手話から日本語への翻訳)

翻訳課題(添削指導)6本+対面学習会3回(6時間)で1セット。2セット実施。

受講生人数 聴者 のべ19名

- 手話教師を対象にした研修会 対象者 手話教師(ろう者)16名

- 翻訳・通訳講師養成講座(30時間)

受講者人数 ろう者 2名

- 通訳理論講座(22.5時間)

受講者人数 7名(ろう者3名、手話通訳者4名)

・フィーター養成講座(22.5時間)

受講生人数 4名(手話通訳者)

・ろう通訳者養成講座(日本語コース)(30時間)

受講生人数 6名(ろう者)

・ろう通訳者養成講座(ISコース)(30時間)

受講生人数 1名(ろう者)

・通訳理論講座(22.5時間)

受講生人数 7名(ろう者3名、手話通訳者4名)

### ・ろう通訳シンポジウム

WASLIのろうアドバイザーで、WFD-WASLI認定国際手話通訳者のナイジェル・ハワード氏(Nigel Howard)を迎え、シンポジウムを東京で開催。参加者 77名。

\*付帯事業として、「通訳ワークショップ」を2日間(2/11-12)実施。参加者 15名(ろう通訳者養成講座、フィーター養成講座の修了生、ろう通訳者、フィーター志望者等)。

### ・通訳OJTプログラム

ろう通訳者養成講座およびフィーター養成講座の修了生を中心に、通訳OJT(通訳オン・ザ・ジョブ・トレーニング)を実施。15件(うち国外3件)。

・CIT2016 視察員・通訳チームの派遣

2016年10月23日～10月31日

レキシントン(米国・ケンタッキー州)

視察員4名(ろう者2名、聴者2名)、ろう通訳チーム(メンター1名を含む4名で構成)を派遣

---

## 2017年度

・翻訳講座(日本語から日本手話への翻訳)

1講座5回(7.5時間)×3

1講座15回(22.5時間)×2

受講生人数 聴者 のべ40名

・e-ラーニング翻訳講座(日本手話から日本語への翻訳)

翻訳課題(添削指導)6本+対面学習会3回(6時間)で1セット。2セット実施。

受講生人数 聴者 のべ19名

・通訳理論講座(22.5時間)

受講生人数 13名

・フィーター養成講座(45時間) \*履修時間増

受講生人数 2名

・ろう通訳者養成講座(49.5時間) \*履修時間増 \*ISコース、日本語コースを統合

受講生人数 6名

・通訳OJTプログラム 15件

・学術分野における弱点克服セミナー

**ろう通訳者**、手話教育・翻訳教育に携わるろう者に求められる専門知識(学術分野)を日本手話で学ぶ。10学術分野からセミナーを実施、のべ30時間、のべ126名(ろう者)。

\*10学術分野:経済、医学、教育、遺伝子工学・蛋白室工学、心理学、法律学、看護学、ケースワーク、薬学、社会学

---

## 2018年度(本年度) 2018年10月10日現在

・翻訳講座(日本語から日本手話への翻訳)

1講座5回(7.5時間)×3

1講座15回(22.5時間)×2

受講生人数 聴者 のべ40名

・e-ラーニング翻訳講座(日本手話から日本語への翻訳)

翻訳課題(添削指導)6本+対面学習会3回(6時間)で1セット。

受講生人数 聴者 のべ10名

・通訳理論講座(22.5時間)

受講生人数 12名(ろう者6名、聴者6名)

・フィーダー養成講座(45時間)

受講生人数 4名

・ろう通訳者養成講座(49.5時間)

受講生人数 4名

・**ろう通訳者・フィーダー研修会**

ろう通訳者養成講座及びフィーダー養成講座の修了生を対象にした研修会。

4回実施。のべ31名(ろう通訳者24名、フィーダー8名)

通訳研修の場として講演会を2回実施

(上記以外に自主研修会 6回実施)

・通訳OJTプログラム 12件

派遣人数 ろう通訳者 のべ25名、フィーダー のべ23名、スーパーバイザー のべ2名

・CIT2018 視察員・通訳チームの派遣

2018年10月29日~11月5日

ソルトレイクシティ(米国・ユタ州)

視察員4名(ろう者1名、聴者3名)、ろう通訳チーム(メンター1名を含む3名で構成)派遣。

・ろう通訳資格化プロジェクト

## 2 「通訳理論講座」のカリキュラム

(カリキュラム) 15コマ(22.5時間)

通訳概論I・II(3時間)

手話通訳者のあり方I・II(3時間)

コミュニケーション論(1.5時間)

デマンド・コントロール・スキーマ I・II (3 時間)  
社会言語学視点の手話通訳分野 (1.5 時間)  
ろう通訳の役割 (1.5 時間)  
聴通訳とろう通訳の協働することの意義 (1.5 時間)  
手話通訳者の倫理 (1.5 時間)  
事例検討 I～IV (6 時間)

対象:手話通訳者、手話教師(ろう者)、通訳コーディネーター、通訳養成に携わっている人  
使用言語:日本手話  
定員 10 名に対し、応募者 32 名。抽選を経て 12 名が受講(2018 年度)

### 3 「フイーダー養成講座」のカリキュラム

(カリキュラム) 31 コマ(46.5 時間)  
通訳概論 I・II (3 時間)  
手話通訳者のあり方 I・II (3 時間)  
コミュニケーション論 (1.5 時間)  
デマンド・コントロール・スキーマ I・II (3 時間)  
社会言語学視点の手話通訳分野 (1.5 時間)  
ろう通訳の役割 (1.5 時間)  
聴通訳とろう通訳の協働することの意義 (1.5 時間)  
手話通訳者の倫理 (1.5 時間)  
事例検討 I～IV (6 時間)  
講義「翻訳とは何か」 I・II (3 時間)  
講義「フイーダーを経験して」(1.5 時間)  
講義「ろう通訳を経験して」(1.5 時間)  
通訳演習 I～IV (6 時間)  
通訳実習 I～VI (9 時間)

対象:手話通訳に関して資格を有している聴者(手話通訳士、地域の登録手話通訳者等)  
選考あり  
使用言語:日本手話(「フイーダーを経験して」のみ音声日本語)  
ろう通訳者養成講座と合同で実施(太文字部分を除く)  
定員 6 名に対し、4 名が応募。選考を経て全員が受講。(2018 年度)

選考内容については、別紙を参照。

## 4 「ろう通訳者養成講座」のカリキュラム

(カリキュラム) 31コマ(49.5時間)

- 通訳概論 I・II (3時間)
- 手話通訳者のあり方 I・II (3時間)
- コミュニケーション論 (1.5時間)
- デマンド・コントロール・スキーマ I・II (3時間)
- 社会言語学視点の手話通訳分野 (1.5時間)
- ろう通訳の役割 (1.5時間)
- 聴通訳とろう通訳の協働することの意義 (1.5時間)
- 手話通訳者の倫理 (1.5時間)
- 事例検討 I～IV (6時間)
- 講義「翻訳とは何か」 I・II (3時間)
- 講義「ろう通訳を経験して」 (1.5時間)
- 通訳基礎トレーニング I・II (3時間)**
- ワークショップ「通訳者としての美しい身のこなし」 (1.5時間)**
- 通訳演習 I～IV (6時間)
- 通訳実習 I～VI (9時間)

対象:①日本手話を母語(もしくは第一言語)とするろう者で、書記日本語の読み書きが可能であること。②ろう通訳者をめざしていること。

選考あり

使用言語:日本手話

フィーダー養成講座と合同で実施(太文字部分を除く)

定員6名に対し、8名が応募。選考を経て4名が受講。

選考内容については、別紙を参照。

\*ろう通訳者養成講座、フィーダー養成講座は、基本的に合同で行なう。

通訳実習 2018年度

特別講演会「認知言語学から見た日本手話」(高嶋由布子氏)

特別講演会「日本手話の音節」(原 大介氏)

## 5 「ろう通訳シンポジウム」や関連事業の内容

[ろう通訳シンポジウム 名古屋会場]106名

日時:2015年1月31日(土)

講演「ろう通訳者の将来を考える」(小野広祐)

報告「米国におけるろう通訳事情 ～CIT 会議から～」(前川和美)

パネルディスカッション「いま、なぜろう通訳者なのか？」

パネリスト:小野広祐、前川和美、春日幸三、相良啓子、馬場博史

[ろう通訳シンポジウム 大阪会場]65 名

日時:2015 年2月 1 日(日)

講演「ろう通訳者の将来を考える」(小野広祐)

報告「米国におけるろう通訳事情 ～CIT 会議から～」(前川和美)

パネルディスカッション「いま、なぜろう通訳者なのか？」

パネリスト:小野広祐、前川和美、春日幸三、相良啓子、馬場博史

[ろう通訳シンポジウム 東京会場]95 名

日時:2015 年2月 14 日(土)

講演「ろう通訳者の将来を考える」(野口岳史)

報告「米国におけるろう通訳事情 ～CIT 会議から～」(前川和美)

パネルディスカッション「いま、なぜろう通訳者なのか？」

パネリスト:野口岳史、前川和美、春日幸三、相良啓子、馬場博史

[公開特別セミナー及び勉強会]

(手話通訳勉強会)11 名

日時:2015 年 2 月 27 日(金)

講師:川上 恵(ギャロデット大学大学院通訳学部修士課程修了)

内容:手話通訳に関するディスカッション

(公開手話通訳セミナー)40 名

日時:2015 年 2 月 28 日(土)

講師:川上 恵(ギャロデット大学大学院通訳学部修士課程修了)

内容:米国における手話通訳の最新事情について

[WASLI(世界手話通訳者会議)報告会]55 名

日時:2015 年 10 月 11 日(日)

「WASLI2015 の概要と今回の目的について」(木村晴美)

「ワークショップ報告:ろう通訳者の視点からみた IS」(小林信恵)

「IS→JSL 通訳を通してみた WASLI」(守橋幸男)

「はじめてのろう通訳訓練」(馬場博史)

「ろう通訳訓練を終えて」(前川和美)

「効率的なチームワーク」(川上 恵)

[ろう通訳シンポジウム 鹿児島会場]108名

日時:2016年1月30日(土)

講演 「ろう通訳者の将来を考える」(小野広祐)

報告 「CIT や WASLI 等に見るろう通訳者とフィーダーについて」(前川和美)

「ろう通訳訓練生を通して考えたこと」(馬場博史)

「海外のろう通訳者を見て思ったこと／日本に提言・期待したいこと」(相良啓子)

「non-Deaf interpreter(聴の手話通訳者)の立場から」(飯泉菜穂子)

[ろう通訳シンポジウム 愛媛会場]20名

日時:2016年2月11日(祝)

講演 「ろう通訳者の将来を考える」(野口岳史)

報告 「CIT や WASLI 等に見るろう通訳者とフィーダーについて」(前川和美)

「ろう通訳訓練生を通して考えたこと」(馬場博史)

「海外のろう通訳者を見て思ったこと／日本に提言・期待したいこと」(相良啓子)

「non-Deaf interpreter(聴の手話通訳者)の立場から」(飯泉菜穂子)

[ろう通訳シンポジウム 宮城会場]138名

日時:2016年2月28日(日)

講演 「ろう通訳者の将来を考える」(小野広祐)

報告 「CIT や WASLI 等に見るろう通訳者とフィーダーについて」(前川和美)

「ろう通訳士(CDI)について」(川上恵)

「ろう通訳者が働ける環境について」(春日幸三)

「non-Deaf interpreter(聴の手話通訳者)の立場から」(飯泉菜穂子)

[CIT(全米手話通訳養成者会議)2016 報告会]44名

日時:2016年12月4日(土)

「CITとは?」(木村晴美)

「教室での模擬活動とVRS/VRIカリキュラムの紹介」(杉原大介)

「ゲートキーパーとCO通訳」(荒井美香)

「準備と課題(ろう通訳)」(寺澤英弥)

「ろう通訳訓練生として」(馬場博史)

「ろう通訳訓練生として」(武田太一)

「コーディネーター及びメンターとして」(川上 恵)

[ろう通訳シンポジウム 東京会場]77名

日時:2017年2月12日(日)

貴重講演 「ろう通訳者 ～役割と可能性～」(ナイジェル・ハワード)

報告 「ニュースを伝える難しさ ～手話らしい手話に翻訳する～」(小野広祐)

「ろう通訳士(CDI)について」(川上 恵)

「ろう通訳派遣状況報告」(春日幸三)

「non-Deaf interpreter(聴の手話通訳者)の立場から」(飯泉菜穂子)

付帯事業[通訳ワークショップ]東京 15名

日時:2017年2月11日(土)～|12日(日)

講師:ナイジェル・ハワード

内容:ろう通訳に関するワークショップ

## 6 通訳 OJT プロジェクト

ろう通訳者養成講座及びリーダー養成講座修了生を中心に、通訳 OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)を2016年度からスタートした。実績としては、下記のとおりである。

(2016年度) のべ70名派遣(ろう通訳者 36名、リーダー34名)

- ・マイナンバー学習会
- ・基調講演「言葉・ことば・言葉って何? ～言語理論の視点から～」
- ・特別講演「いのちの絆を宇宙に求めて」
- ・出版記念講演「Noricoda 波瀾万丈」
- ・5th WFD ASIA Conference Singapore 2016(シンガポール)
- ・手話通訳者のための「みんなばくで手話言語学を学ぼう!」
  - 1「手話通訳者と手話言語学」「手話言語学の始まり」
  - 2「手話言語の音素とその組み合わせ」「手話言語の形態素とその組み合わせ」
  - 3「手話言語の動詞の種類とその成り立ち」「手話言語の文のつくり」
  - 4「ろう児の言語獲得過程」「手話と認知科学」
  - 5「ろう教育の現状と課題」「手話を活用した日本語指導」
- ・CIT2016(米国・ケンタッキー州)全米手話通訳養成者会議
- ・講演「日本手話の音」
- ・日曜教室「病院の中の通訳者」
- ・特別講演会「猛暑にスーパー台風、地球環境はこれからどうなるの?」
- ・2017 翻訳・通訳シンポジウム(2017 Interpretation and Translation Research Symposium) ギャローデット大学

(2017年度) のべ98名派遣(ろう通訳者 48名、リーダー46名、メンター4名)

- ・講演「あなたと手話言語条例」
- ・大学 講義「手話学入門」「正しく知ろう手話の世界」
- ・心理臨床に関する研究会(3日間)
- ・講演「医療通訳はどうあるべきか」
- ・カントリーレポート発表会
- ・企業の忘年会

- ・講演通訳「人権を考える市民の集い」
  - ・楽しい言語学を学ぶ会(たのげん)(6日間)
  - ・書籍翻訳『障害のある先生たち ～「障害」と「教員」が交錯する場所で～』(生活書院)
- (＊地方裁判所から「裁判員裁判」にろう通訳者・フィーダーの派遣を要請されたが人材と日程の調整が折り合わず。)

(2018年度)\*2018年10月10日現在

- ・講演「みんなく手話部門での学術手話通訳研修事業について」
- ・特別講演会「世界の手話通訳事情」における通訳
- ・大学 講義「手話学入門」「正しく知ろう手話の世界」
- ・「みんなくで手話言語学を学ぼう！2018」
- ・講演「医療通訳者の役割 ～外国人のための医療通訳をもとに～」
- ・記念講演「アイヌ語と手話言語」
- ・シンポジウム「手話通訳者に医療知識は必要か？」
- ・カントリーレポート発表会

## 7 ろう通訳者・フィーダー研修事業 (ろうフィ研修会) \*2018年10月10日現在

2018年度より、ろう通訳者養成講座及びフィーダー養成講座修了生を中心に、通訳スキルや通訳論等に関する研修プログラムを導入した。これは、前年度において、自主的に研修を行っていたものを発展させて、予算をつけるようにしたものである。研修会と通訳研修の2つにわけて実施している。後者は通訳OJTとリンクしている。(なお、自主研修は継続して実施している。)

(ろうフィ研修会)

第1回ろうフィ研修会「通訳の事例検討」

対象:6名(ろう通訳者5名、フィーダー1名)

第2回ろうフィ研修会「ワークショップ(通訳事例)」

対象:12名(ろう通訳者8名、フィーダー4名)

第3回ろうフィ研修会「糖尿病と困った患者の事例」

対象:7名(ろう通訳者5名、フィーダー2名)

第4回ろうフィ研修会「薬局の裏側」

対象:6名(ろう通訳者5名、フィーダー1名)

(ろうフィ通訳研修)

第1回ろうフィ通訳研修(実際に通訳を行なう)

講演会「世界の最新の手話通訳事情」

講師:オリバー・プーリオ氏(AIC登録手話通訳者等)

## 第2回ろうフィ通訳研修(実際に通訳を行なう)

講演会「Noricoda 老ろう親のドタバタ介護」

### ○参考 ろうフィ自主研修会の実施(予算外)

「資料の読み方」

参加者人数:6名(ろう通訳者3名、フィーダー3名)

「フィードを経験してみる」

参加者人数:10名(ろう通訳者6名、フィーダー3名、見学者1名)

「日本語から日本手話への翻訳」

参加者人数:4名(ろう通訳者3名、フィーダー1名)

「日本語から日本手話への翻訳」

参加者人数:6名(ろう通訳者3名、フィーダー3名)

「糖尿病について」

参加者人数:4名(ろう通訳者2名、フィーダー2名)

## 8 おわりに

ろう通訳者の養成については、時期尚早という意見もあるが、来たるべき資格化の実現(ろう通訳士試験等)に向けて、ろう通訳者養成やフィーダー養成に早期から取り組む等のマンパワーの蓄積を行なうことは重要である。

もちろん、資格化にあたっては、カリキュラムや試験内容の検討、ろう通訳の派遣体制等、取り組むべき課題は多い。世界のろう通訳に関する情報をさらに収集し、整理することも重要であり、関連団体(全日本ろうあ連盟、全国手話研修センター、全国手話通訳問題研究会、日本手話通訳士協会等)に働きかけて、「ろう通訳士」資格化を実現したい。

(2019年度の目標)

- ・ろう通訳の資格化に関する勉強会を定期的開催
- ・海外視察(資格試験を実施している機関、養成している大学等の視察)
- ・海外のCDI(資格のあるろう通訳者)等を招聘し、ろう通訳ワークショップを開催

(2020年度の目標)

- ・ろう通訳の資格化に関する勉強会を定期的開催(資格化への提言をまとめる)
- ・海外視察(CIT2020への参加、ろう通訳の現場を視察)
- ・ろう通訳資格化シンポジウムを開催